

ご挨拶

「誰ひとり取り残さない」(No One Left Behind)

これは、2015年に国連サミットで国連の全加盟国が賛成して採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ(2030 Agenda for Sustainable Development)」の中で、基本的な原則として示されたものです。

本市が直面した深刻な公害問題を克服するための努力は、子どもや家族のために、婦人会が立ち上がったことから始まり、その後、市民、企業、行政が共に手を携え行動した結果、青い空と海を取り戻しました。そこには、「誰ひとり取り残さない」という、市民一人ひとりの強い意志がありました。

その後、本市は公害克服の過程で培った経験や環境関連技術を活かし、環境国際協力を進めました。これもまた、自分達の経験を踏まえ、途上国の人々も誰ひとり取り残すまいという意志の現れといえます。

平成16年には、市民・企業・行政が協力して、世界の環境首都(World Capital of Sustainable Development)を目指したグランド・デザインを策定しました。そこでは、未来の世代を含む、地球上のすべての人が、尊厳を守られる社会(「持続可能な社会」)を目指すことを、北九州市民が約束しています。このように、「誰ひとり取り残さない」という原則は、北九州市民の中に、既にしっかりと根付いているのです。

こうした本市の取組は、国内外でも高く評価されています。平成29年7月に開催された国連ハイレベル政治フォーラムでは、日本政府から、カンボジアにおける本市の水道事業による貢献が取り上げられました。また、中国の諸都市における大気汚染の改善に向けた本市の長年の協力は、環境面のみならず健康面からも高く評価されています。

一方で、我が国でも、そして世界でも、環境問題をはじめとする様々な課題が深刻化しています。我が国において、人口減少や高齢化が進む一方で、世界では人口増加や経済成長が進み、気候変動や天然資源、生態系など環境への負荷はますます高まっています。「こうした様々な課題に総合的に取り組み、同時解決を図っていくことが必要である」—それが、2030アジェンダの一つのメッセージであり、その具体的な課題とゴール(目標)を示したのが、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals=SDGs)です。

このような情勢を踏まえ、今回見直した「北九州市環境基本計画」では、新たに副題として「環境首都・SDGs実現計画」と名付けました。この計画では、グランド・デザインを踏まえ、これまでの本市の取組を活かして、環境面から本市、我が国及び世界の諸課題(SDGs)に取り組むこととしています。

「我々は、持続可能な開発に対する大きな課題に直面している。(中略)しかしながら、大きな機会(チャンス)の時でもある」と、2030アジェンダは述べています。世界を取り巻く環境は厳しい状況ですが、本市では「誰ひとり取り残さない」を旨として、パートナーシップの下で環境に係る経験と技術を積み重ねてきた市民や企業の皆様とともに、この危機をチャンスに変えていきます。

結びに、計画策定にあたり、ご尽力を賜りました「北九州市環境審議会」の委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました市民・企業の皆様に心からお礼申し上げます。

平成29年11月

北九州市長 北橋 健治